

● シリーズ 私の見た日本 Vol.209

私の見た東京+山形、そして日本建築への関心

ALICE CHAN AI TING (アリス チャン アイ ティン)

マレーシアのパン州生まれ。
2018年山形大学工学部建築・デザイン学科卒業。
三菱地所設計株式会社に
CADオペレーターに所属している。



2016年の秋に、日本に初めて来た。来日する前に、まだ見たことのない日本はどんな環境や雰囲気があるかを期待していた。日本といえばアニメ、漫画、お寿司、ダイソーぐらいいかないイメージだった。実際に日本へ足を踏み入れると、第一印象は建物が全て大きくて人が多いことに驚いた。私の出身地は割と田舎なところだったので東京に着いた時にカルチャーショックを受けた。日本語が全くわからなかった私は最初の1年間半の間東京にある日本語学校に通った。主に日本の住まいに関する自らの経験を述べたい。そのために、初めに「私の見た日本の東京」、そして今までの日本にいるそれぞれの段階について述べていきたい。

まずは東京の生活。東京では自分のイメージ通りに高いビルがたくさん並んでいて、街には看板だらけ、賑やかでどこでも混んでいる大都市だ。高層ビルや建物の立ち並ぶコンクリートジャングルという東京の強いイメージがあるが、自然に触れられるスポットも少なくない。日本の四季が日本庭園の緑が溢れる公園が多くて、たとえ賑やかな環境から逃げたくても、近くの公園が都内の人気な芝生の公園で快適に過ごせる。自然が好きな私はよく公園を散歩していた。特に春に桜満開の景色を見る公園の散歩と秋に紅に染まる公園の散歩するのがおすすめだ。

また、交通利便性の高い東京ではすぐ住みやすいように思う。交通機関の正確さや交通網が大きく広がっているので行きたいところをスマートフォンで調べれば簡単にアクセスできるのが一つの関心したところだ。私の実家には電車がなくて、公共交通があまり使われていなかったの、東京の公共交通手段の大切さを感じた。

日本の生活にだんだん慣れ始めたら、小さな生活空間に居るのが気づいた。住まい空間だけではなく、町、店、トイレなどもさまざま狭い空間を有効活用していることに憧れた。特に体が振り返れないぐらい面積が小さいトイレとお風呂に驚いた。天井の低い部屋や店も多くて、身長が高い外国人にとっては大変なことになる。

いよいよ日本語学校を卒業して、大学を受験して山形大学に合格し、大学の生活に迎える。来日してから1年半後に、賑やかな東京から離れて、自然が豊かな落ち着いた山形に引越したので、続いて「私の見た日本の山形」について述べたい。初めて山形に着いた時、一番目に入ったのが霞城セントラルというビルだった。なぜかという、このビルは山形駅から唯一の目立つ高いビルで他は高い建物がなかった。「これからの大学生生活の4年間は田舎に生活するんだ」と私はすぐ思い始めた瞬間、あっという間に4年が過ぎた。いったい日本の山形でどんなことを「見た」かを振り返ってみよう。

一つ目は、山形の自然の豊かさ。自然と近づきながら過ごすのが好きというのが山形に来てから気づいた。山形は山に囲まれているのが強いイメージで、緑が多い。大学の寮に住んでおり、窓の真っ正面は森だった。毎日緑が近くにあって居心地良い。悩みやストレスがあっても自然だけを見てもすぐ気持ち良くなる。そして、山形の魅力的な五堰は一つの特徴であった。例えば一番印象になった山形五堰の見どころは七日町御殿堰という中心商店街で、昔ながらの石積み水路を生かした町づくりで水の音を楽しみながら食事をしたり買い物をしたりできる場所だ。山形五堰に関する活動は大学の一つの課題だったので、五堰の役割や魅力に目に入った。

二つ目は、新しい体験に挑戦して時間をつめたこと。例えば、私は雪山のハイキングに挑戦した。雪山のないマレーシアはこういう珍しい体験ができないから冒険的な経験だった。また、日本の茶道に興味があるので、山形の美しい庭園のお茶室に茶道を体験した。鮮やかな庭園景色を見ながら心を落ち着けて抹茶の味や香りを味わう体験で、お抹茶を楽しむことができた。

東京と山形は全然違う世界に見えたが、自然に溢れている山形に1人で新鮮な空気を吸いながら落ち着いている生活ができたのが素敵な思い出だったと思う。つまり、田舎にいても東京みたいな都市生活はできないが、色々な新しいことを見つかりながら毎日過ごすのが田舎の楽しさだと私は思う。

また、私は特に「家」に関わることに興味があるので、次に「家」をテーマにして述べたい。日本と自分の国マレーシアの家はどんな比較ができるか。

日本の安全性から考えると、一戸建てには境界フェンスがあまりなく、オープンな外構の家が多いことに気づいた。外構フェンスがあっても塀が低くて、開放的に見える。

日本語学校に通っていた時に、ホームステイプログラムに参加した。初めて実際に日本の一戸建ての家に泊まるのが経験できた。ホームステイの場所は山梨県の富士山駅にあつて、ホストファミリーは2人のおじいちゃんとおばあちゃんだった。その時は来日してから何ヶ月しか経ってなかったし、日本語もまだスムーズに話せなかった私は緊張している気持ちがあるなかで1人で山梨に行った。日本の住宅に全くイメージがない私はこのホストの家へのファーストインプレッションは自分の想像通りに塀・ゲートのない、天井が低く面積が小さい日本の家だった。家は山

の中に建てられていて、木に囲まれている自然に接する空間にいた。そこにいたときはとてもリフレッシュな気持ちで毎日居心地が良く過ごさせていける環境だ。外の自然環境だけではなく、木造の家だから家の中にも木の香りがしていた。日本は五感をじっくりと楽しむことで生活をもっと充実させることができるホストのおばあちゃんに言われた。私にとって一番深い印象だったのが木の香りだった。木造の家に訪ねることがなかったから「木はこんなに強い香りがするんだ!」と私は初めて思った。このホームステイに参加した感想としては、新しい体験から自然の特徴が知られるのがよかったと思った。部屋は日本らしく狭かったが、狭い部屋は限られている空間に独特なメリットがあると思う。もちろんスペースが少なく動きにくくて慣れなかったが、実際に住むと家族との距離が近づけるし、部屋の掃除もしやすいではないかと思った。留学中に日本の家に短期的に滞在し

ながら日本人と交流ができて日本の家に実覚できて、すごく素敵な経験だったと思う。

一方、私の国では大きな塀やゲートのない家はあり得ないことだと言われている。実家のセミディタッチド家は、家に入る前必ずリモコンで自動扉を開けてから車を泊めて家の範囲に入るというフローである。治安があまり良くないこともあるが、プライバシーを守ることが大事である。日本では一戸建て住宅が多いと思うが、マレーシアではセミディタッチドハウス式が多いとみられている。マレーシアでは一年中熱帯雨林気候の影響もあるから天井が高く、空気の流れがスムーズにできるように作られている。日本との比較はほとんど反対であることが気づいた。

もちろん大学で学んだ建築に関する知識やスキルも活かしていきたいと思っている。日本の建築技術に優れているからだ。例え

ば、日本は小さな空間を広く活用することは一つの必要な技術だと思う。また、マレーシアでは地震がないが、地震が多い日本では耐震技術についての専門知識も日本に来てから知ったから日本の進化と共に追いついていきたい。特に地震の対策に関することが関心を持っている。初めて日本で地震を感じた時はすごく驚いた。その時はまだ耐震について聞いたことなかったから、もしまだ地震が発生したら建物が倒れるのではないかと私は思っていて、怖かった!しかし、日本では大きな被害を減らすために建物の耐震設計において地震に対する建築構造物の破壊などを防ぐ技術があることに安心できると思う。

今、日本は私の第2故郷としている場所だから、今後も日本の進化や楽しさをもっと深く理解していきたいと思ってる。私の見た日本とは文化が結び絆の強い国だから、日本から新たな価値を生み出していきたいと思った。



東京のコンクリートジャングル



ホームステイプログラムの家



実家の住宅環境



日本の狭い部屋のイメージ



山形の七日町にある五堰見どころ



秋の日本庭園